

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長崎哲夫
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし



向日町教会 (京都教区、京都南部地区)

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。
ガラテヤの信徒への手紙 2章20節

ガラテヤの信徒への手紙2章20節は私たちが福音によって与えられた生き方を示します。
「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」

私たちは、死んでいったものたちによって、生かされています。そのことを教えるのがイエス・キリストです。
キリストがわが内にいのちとなってくださっている

たしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。
私たちは、死んでいったものたちによって、生かされています。自我を葬り去り、キリストの沈黙の声に耳傾けるのです。
まさに、私の中の本当の私であるキリストに生き生きと活動して頂くのです。それは、愛そのものとな

て、この世に自らを解放することです。
その時あなたは、私たちのために死んだものたちと同じく、他者のために、死んでいくものとなるでしょう。十字架のイエス・キリストのようになるのです。そして、キリストと共に甦るのです。そのように、永遠のいのちの道を歩んでゆきましょう。
(向日町教会牧師)

キリストが内に生きておられる

神の右に座すイエス・キリスト

しかも、死が生にただ吸収されるだけではありません。地にイエス・キリストが私たちの内でのちとなってくださっているのと同じ時に、天で神の右に座しておられるのです。それなら、

私たちのために死んでくださったものも、また、天において永遠のいのちになっているでしょう。
それは歴史においてもいえるのです。数えきれないほどのいのちが失われた太

私たちのために死んでくださったものも、また、天において永遠のいのちになっているでしょう。
それは歴史においてもいえるのです。数えきれないほどのいのちが失われた太

太平洋戦争では、日本兵は170万人以上、民間人も35万人以上亡くなりました。中国では1700万人、ベトナム、ビルマなどの東アジアでも民間人と兵士を合わせて1千万人を越える人々が死にました。日本の平和はこの犠牲の上に成

この人々に思いを寄せるのが8月15日です。戦争で亡くなった方々の一人一人の死を、キリスト者である私たちは、イエス・キリストの十字架とともに受け止めなければなりません。彼ら一人一人の死は間違はなく、私たちへの愛なのです。

「へら」

石垣りん

8月16日には、五山の送り火が終わりました。下旬には地藏盆があります。日本では、夏は生と死とが交差する時期です。この時に生と死について考えてみましょう。
生きるということは食べることです。人はパンのみでは生きていきませんが、パンなしでも生きられません。その意味では、生きているということは他のいのちを奪うことです。そのことを描写した詩があります。

食わずには生きてゆけない。
メシを
野菜を
肉を
空気を
光を
水を
親を
きょうだいを
師を
金もころも
食わずには生きてこれなかった。
ふくれた腹をかかえ口をぬぐえは
台所に散らばっているにんじんのしつぽ

鳥の骨
父のはらわた
四十の日暮れ
私の目にはじめてあふれる獣の涙。
『石垣りん詩集 表札など』
(2000年 童話屋)

このいのちの定めゆえに、イエス・キリストは十字架に架かってくださったのです。私たちへの愛の行為です。この時から、すべてのものの死は、愛の行為となったのです。
私たちは生きるために、親や多くの人々の犠牲を必要としています。その犠牲が私への愛でできているなら、どうでしょう。私たち

は、親の犠牲に気付かずに成長してきました。両親も犠牲とも思わず、子どもたちへの愛ゆえに喜んでましたことなのです。
私たちはこの親をその愛で食べたのです。それゆえに、「獣の涙」を超えてゆくののです。私たちは、ビタミンを含む食物を食べ

私たちはこの親をその愛で食べたのです。それゆえに、「獣の涙」を超えてゆくののです。私たちは、ビタミンを含む食物を食べ

て、ビタミンを摂取した、たんぱく質を含む食物を食べ、たんぱく質を自らのものにします。それなら、愛を食べれば、愛を摂取したのです。その愛を自らの血肉となして生きているのかという問いが涙となって目

に溢れば、その涙は、その愛に相応しい生き方を求める祈りになって神に向います。
同じように、多くの牛豚、魚も、愛ゆえに死んでくれたのではないのでしょうか。イエス・キリストの十字架

は、これらのいのちの中に立てられているのです。私たちは、神の愛の中にいのちを営むのです。
犠牲になってくださった愛に応えたいという祈りによって、私たちのいのちも愛になるのです。
そのとき、私たちのいのちと化した他のいのちはわたしを通してこの世に再びその姿を現わすのです。

メッセージ

わたしの中のキリスト

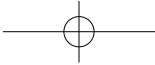
ガラテヤの信徒への手紙2章20節



宮地健一

を、師を」もです。申し訳ないと涙を流しますが、「食わずには生きてこれなかつた」のです。詩人は、「ごめんなさい、もうしません」とは言えないのです。これからも、おそらく食べ続けなくては生きられないからです。だから、涙を流すのです。しかし、人の涙でなく、「獣の涙」を流すのです。生きていることの罪をみごころに描いた詩です。

お知らせ
「教団新報」は、今号を4779・80合併号とし、4781号は9月14日発行とします。
教団総幹事 長崎哲夫



▼ 社会委員会 ▲

北陸・能登にてフィールドワークを実施

6月17日から18日にかけて第38総会期第2回社会委員会が七尾教会にて開催された。会議の前後には、北陸は能登半島の教会・伝道所の訪問およびフィールド

ワークが行われた。

であるが、教会堂および関連施設施設の再建が果たされた姿を見ることができた。当該教会の教師および信徒と共に、主の導きをおもひ祈るひとときとなった。

震災当時の社会委員会による迅速な対応と支援の呼びかけ、それに端を発する各教区、教団からの支援に対する感謝の意が異口同音に聞かれたことは印象的であった。



再建の成った富来伝道所前にて

フィールドワークとしては、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の公布に伴う、制度変更の要点のレクチャーを受けた。

同時に、教会関連諸施設を訪問し、施設長、職員から教師(いわゆるCコース)

ら今後の可能性と課題を現場の声として聞いた。

見学した施設は次のとおり。(学) 羽咋白百合学院の学校・幼稚園・保育所は、原子力災害時の放射線

▼ 教師委員会 ▲

新任教師オリエンテーションを挟み委員会開催

6月17日及び19日、天城山荘にて、第2回教師委員会を開催した。新任教師オリエンテーション前に、全

の研修について。この研修は教師委員会主催ではないことを確認した。

2012年度の会計報告がなされ、牧会者共同研修委員会の設立の経緯を次回の委員会までに調べることに

した。新任教師オリエンテーションのため、田邊田紀夫委員の祈禱を以ていったん会

議を閉じ、終了後に委員会を再開。オリエンテーションの反省を行った。

2014年度新任教師オリエンテーションは、2014年6月16日から18日、場所は天城山荘で行うこととした。

多岐にわたる、それぞれに重い責任を負っている。主の助けを信じて取り組んでいる。覚えて祈って欲しい。宇田真委員の祈禱を以て閉会した。

(古澤水報)

▼ 教区活動連帯金検討委員会 ▲

規則に連帯金廃止明記を検討

第3回教区活動連帯金検討委員会は6月20日教団総幹事室において開かれた。今回は、小林克哉伝道委員長に陪席を求め、関連事項を確認しながら協議した。

二つ目は、新制度「伝道資金規則」の具体的執行に当たって、各教区、常議員会、予算決算委員会、伝道委員会等との関連について

置かれた当初の理念がその通りに受け継がれてこなかったことがある。更に名称が表明している「連帯」が自明のもでなくなったことなど、教団全体が抱える問題と接するものであった。

言葉を変えれば、教区活動連帯金は、機能しなくなったことを認めざるを得ないこと。拠って、教区活動連帯金を廃止し、新たな教団諸教会の形成を願い、「伝

道資金規則」を制定しようとするものである。二つ目の主題、新制度執行に際しての具体的な課題について、様々な角度から検討された。

その骨子としては、およびよそ次のような内容が盛り込まれる。

「(1)教規上の位置づけを明確にし、負担金化する。(2)全教会経常収入総額の0.5%を現任陪餐会員数の比率により算出し、各教区に

教団常議員会決議により伝道委員会のもとに伝道推進室が設置されて1年が経過した。38総会期第2回常議員会で承認された主な内容と伝道推進室の近況を報告したい。

まず常議員会で承認された主な内容2点を記したい。第1に、すべての伝道推進室の基盤となる「伝道推進室基本方針(本文と経緯)である。本文のみ以下に掲載する。

第2に、「伝道礼拝・伝道集会等への講師派遣のガイドライン」である。これは教団内諸教会における伝道推進に仕えるために、ひとつの形として提示したものである。主日礼拝の平均

案」の冒頭に、教区活動連帯金制度を廃止し、新たに「伝道資金」制度を設置する、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

る、と明記することについて詳細な検討、つまり、廃止に至る分りやすい説明が必要であらうというも

共に祈り、支えよう！

Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

2013年8月

教団救援対策本部長 石橋秀雄

目標額 10億円(国内のみ)
期間 2011年7月1日～2015年3月31日
振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

推進室設置から1年を経過

▼ 伝道推進室 ▲

て、日本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、さらには将来の『伝道局』構想を視野に入

出席約30名以下の教会、また、地域の複数教会が合同して集会を行う場合、その諸教会を対象とすることもできる。所定の手続きを経て、講師の謝礼、交通費、宿泊費等を負担する。後日教団内諸教会に正式に案内する予定である。

次に伝道推進室の近況を報告する。発足記念大会を東京(3月31日・銀座教会、大阪(7月13日・大阪教会で開催した。幼稚園保育園の「子育て新システム」に関する緊急集会を、東京(4月2日・教団会議室、兵庫(7月15日・西宮教会、北海道(7月23日・札幌北光教会・北海教区共催)で開

要望に応える応援伝道が実施される。伝道推進室会報も定期的に発行する。来年度に向けて、教団名による中高生・青年大会の準備も進められている。全国諸教会にお祈りと献金によるお支えをお願いしたい。

(岩田昌路報)



伊豆、天城山荘にて委員会開催

14年度現行制度の継続を確認

年度も拠出教区となる場合は、拠出額を0円とすることを、協議会に提案する。

なお、東京教区より、連帯金として拠出している金額が受入教区にあつてどの額が受入教区にあるかについて、連帯をより深めるために報告を求めたいとの文書があったことを受けて、その報告を受入教区にお願ひすることとした。

(計良祐時報)

委員会コラム

高円寺	辞代	大宮 溥	芦屋山手	辞主	佐竹 直
〃	就主	河村 博	〃	就主	林 昌利
十貫坂	辞(兼主)	関川泰寛	浜坂	辞担	西川專一
〃	辞担	関川瑞恵	尼崎竹谷	就担	西川專一
永山	辞主	大塚 忍	関西学院大学		
〃	就主	西川幸作		就教	前川 裕
大森めぐみ	辞主	土戸 清	飯盛野	辞主	奥野彦藏
〃	就(兼主)	関川泰寛	関西農村教化研究所		
〃	就担	関川瑞恵		就教	奥野彦藏
岡山	辞主	井上喜雄	川之江	辞主	佐藤菊雄
〃	就主	大塚 忍	限府	辞代	坂田 茂
札幌北光	辞(担)	松村さおり	〃	就代	川島直道
有田	辞主	鮎川健一	補教師登録		
愛和病院就教	松村さおり		関川美樹		
蒲原	辞代	高橋 爾	(2013・4・21受允)		
〃	就主	鮎川健一	寒河江健		
葦崎	就代	横手征彦	(2013・4・22受允)		
三戸	辞主	栗澤秀夫	高濱心吾、高濱梨紗		

13年6月15日逝去、73歳。
北海道に生まれる。'69年農
村伝道神学校を卒業。'72年
置戸教会に赴任、01年まで
牧会し、04年に隠退した。
遺族は妻・高田聖子さん。

11年11月6日逝去、78歳。
 '59年東京神学大学大学院を修了。
 '63年与那原教会に赴任、
 '69年ボストン大学神学部を卒業、同年佐敷教会に赴任、
 高原教会、真和志教会を経て那覇中央教会を牧会し、
 10年隠退した。遺族は妻・新垣光子さん。

石田泰子氏（隠退教師）
 11年12月17日逝去、85歳。
 52年日本聖書神学校を卒業

崎	崎	崎	川	川	川	川	石川	木上	崎境町	崎
就担	就主	就主	就主	就主	就主	就主	就主	就主	就主	就主
佐竹拓平	今野善郎	長尾邦弘	矢吹一夫	永廣	長尾邦弘	長尾邦弘	細井茂徳	柴 適	細井茂徳	佐竹拓平

年度も拠出教区となる場合は、拠出額を0円とすることを、協議会に提案する。

なお、東京教区より、連帯金として拠出している金額が受入教区にあつてどの額が受入教区にあるかについて、連帯をより深めるために報告を求めたいとの文書があったことを受けて、その報告を受入教区にお願ひすることとした。

(計良祐時報)

委員会コラム

高円寺	辞代	大宮 溥	芦屋山手	辞主	佐竹 直
〃	就主	河村 博	〃	就主	林 昌利
十貫坂	辞(兼主)	関川泰寛	浜坂	辞担	西川專一
〃	辞担	関川瑞恵	尼崎竹谷	就担	西川專一
永山	辞主	大塚 忍	関西学院大学		
〃	就主	西川幸作		就教	前川 裕
大森めぐみ	辞主	土戸 清	飯盛野	辞主	奥野彦藏
〃	就(兼主)	関川泰寛	関西農村教化研究所		
〃	就担	関川瑞恵		就教	奥野彦藏
岡山	辞主	井上喜雄	川之江	辞主	佐藤菊雄
〃	就主	大塚 忍	限府	辞代	坂田 茂
札幌北光	辞(担)	松村さおり	〃	就代	川島直道
有田	辞主	鮎川健一	補教師登録		
愛和病院就教	松村さおり		関川美樹		
蒲原	辞代	高橋 爾	(2013・4・21受允)		
〃	就主	鮎川健一	寒河江健		
葦崎	就代	横手征彦	(2013・4・22受允)		
三戸	辞主	栗澤秀夫	高濱心吾、高濱梨紗		

同年中野教会に赴任。同年中野教会に赴任者の伝道所を経て、87年でエバタ教会を牧会し、退した。遺族は娘・石田津子さん。

原邦枝氏（無任所教師）
12年3月21日逝去、78歳。同年十条教会に赴任、年より00年まで与勝教会を牧会した。遺族は姪・石千秋さん。

事務局報

教師異動

崎	辞主	平澤 晃
川	辞主	長尾邦弘
川	就主	末 永廣
川	辞代	矢吹一夫
石川	就主	長尾邦弘
石川	辞担	細井茂徳
木上	辞主	柴 適
崎	就主	細井茂徳
崎	就主	佐竹拓平
崎	就主	今野善郎
崎	就担	佐竹拓平

清水ヶ丘	辞担	柏	明史
茅ヶ崎恵泉	辞代	大橋久美	
〃	就主	柏	明史
センター北	辞	兼主	小泉 健
〃	就主	上田 彰	
鎌倉雪ノ下	辞	担	荒木かおり
横浜上倉田	辞	挽	地茂男
横浜指路	辞	担	長尾ハナナ
横浜大岡	辞	主	宇野信二郎
〃	就代	南澤 望	
東村山	辞	兼主	芳賀 力
〃	就	主	宇野信二郎
山口	就	担	長尾ハナナ
城陽	辞	主	近藤十郎
〃	辞	担	岸本兵一
〃	就主	岸本兵一	
秋田飯島	辞	代	小友絹代
〃	就	代	中西絵津子
甲東	辞	担	北村智史
東京府中	辞	主	薛 峰 隆
〃	就主	北村智史	
広島古市	辞	主	小崎清信
大阪昭和	辞	主	上田正昭
〃	就主	小崎清信	
華陽	辞	代	田口博之

就主 上田正昭	就主 田中寿明	就代 森嶋 道	辞主 佐藤待子	辞担 阪西恵理子	就主 田中寿明	辞主 北谷 顕	就主 阪西恵理子	辞担 服部愛子	聖心 辞主 小鮎 實	榮光 辞主 小鮎 實	山地の塩	就主 沖田康孝	辞担 土肥隆一	就主 土肥隆一	辞代 小西二巳夫	就主 小鮎 實	就主 江守秀夫	就主 沖田康孝	辞主 塚本洋子	就主 川染三郎	辞主 金附正夫	就代 水吉俊彦	辞主 浅居正信	辞担 横田法子	就代 横田法子	辞主 渡辺誉一	就代 山下慶親	辞主 石黒悦雄
---------	---------	---------	---------	----------	---------	---------	----------	---------	------------	------------	------	---------	---------	---------	----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

〃	就主内田
眞方	辞主本多香
〃	辞担鈴木重
〃	就主鈴木重
瀬戸内	辞代青山
〃	就主本多香
佐賀	辞代木ノ脇悦
〃	就主金附正
高鍋	辞代原田のぞ
〃	就主桑原博
臼杵	辞主澁谷弘
〃	辞担澁谷実
〃	就代田栗
毛呂	辞主稻生勝
〃	就主澁谷弘
〃	就担澁谷実
三条	辞主西川幸
〃	就兼主小鮒
緑野	辞担北川恭
ウェスレー会同メソジスト教会	辞外西之園路
教団	就担西之園路
瀧野川	
袖ヶ浦ともしひ	
富士見町	辞主山口
芝	辞担佐藤智
〃	辞主松下恭
〃	辞担石井道
就主石井道	

伏見	武藏ヶ丘	〃	八代	上尾使徒就兼担松田遺	愛宕町	〃	〃	〃	石和	實	作	手	稻飯田知久町就代丸九	稻飯田知久町就代丸九	阿波池田	瀬戸キリス卜	小平学園	久我山	調布	原宿	田園調布	眉山台北
辞(主宮)	辞(主宮出)	就(主中)	辞(主本屋)	就(主兼担松田遺)	就(主兼担松田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主安袋)	就(主稲)	就(主田出)	就(主田出)	就(主田出)	就(主田出)
辞(主宮)	辞(主宮出)	就(主中)	辞(主本屋)	就(主兼担松田遺)	就(主兼担松田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主担田遺)	就(主安袋)	就(主稲)	就(主田出)	就(主田出)	就(主田出)	就(主田出)

[illegible][illegible][illegible]

田直樹 3・4・30 受允
口幸子 3・5・2 受允
安井直子 3・5・3 受允
淵麻美 3・5・4 受允
秋
藤紀子、 3・4・29 受按
田修 3・5・3 受按
一香澄 3・5・4 受按
栗善忠、
伯恒道、
枝育代、
山邦明、
垣馨、
村悦也、
田島久子、
藤待子、
藤暁、
川経裕、
左藤菊雄

(2013.5.4受按)

教師隱退

柳田剛行、小栗善忠、
山本將信、佐伯恒道、
鈴木崇巨、三枝育代、
三枝道也、丸山邦明、
西垣二一、稲垣 馨、
穴井崇司、中村悦也、
益 守榮、小田島久子、
近藤士郎、佐藤待子、
服部愛子、内藤 暁、
本村和子、宮川経裕、
藤原一二三、佐藤菊雄

部落解放九州教区キャラバン 2013

「部落解放九州教区キャラバン2013」を6月20日から7月3日まで、日本基督教団九州教区と部落解放センターの共催（主催・同実行委員会）で開催しました。キャラバン隊は小林明（部落解放センター主事・隊長、隊員に応募してきた金耿昊（キムキョンホ）さん（在日大韓基督教会横須賀教会執事・大学院生）、大川祈さん（同志社大学神学部生）、前回の関東キャラバンにも参加した榊田翔希さん（同志社大学神学部生）の4名。部落差別がなくなことを願い、解放運動への熱い思いを伝えるために、また九州教区の各地の教会・伝道所で取り組んでいる方々との出会い、さらに新たな出会いを求めて九州教区を駆け巡りました。



九州キリスト教会館北九州分室で行われた出発式で各隊員は決意表明をし、梅崎浩二九州教区議長から力強い励ましと祝福をいただき、九州教



上:別府野口教会にて
下:長崎 26 殉教者記念像前にて

区の方々の熱い祈りをもってキャラバン隊は送り出されました。その後、北九州、大分、宮崎、鹿児島、奄美、熊本、長崎、佐賀、福岡、筑後と九州教区の全地区を巡って計12回の集会を行いました。各集会では、それぞれの隊員がメインスピーカーを交代で担当して部落差別と取り組む熱い思いを語りました。また、狭山事件のアピールや部落解放センターの紹介も行いました。全ての会場で歌を歌い、集会を盛り立てました。

期間中、日曜日を2回挟みましたが、隊員がそれぞれ4つの教会に別れて礼拝を行い、礼拝の中などで語る機会が与えられました。さらに福岡地区では部キ連九州の研修会にお招きいただいて集会を行い、福岡女学院中高、福岡女学院大学、西南学院高校ではそれぞれを隊員が分担してチャペルで語らせていただきました。筑後地区では「九州教区部落解放講座／新任教師オリエンテーション」に参加

し、プログラムの途中で「キャラバン大集合」を行いました。また、コースの途中で奄美大島、徳之島、川内原発、佐世保軍港、長崎市内、KUSコイノニア・センター（小野一郎先生宅）、小都市人権教育啓発センターでフィールドワークや研修を行いました。瀬戸内教会のかな保育園では子どもたちとの交わりも与えられました。キャラバンカーの走行距離は1708.6キロ。奄美地区へはキャラバンカーを預けての移動でしたので、全行程2500キロの大移動でした。各地の集会、大集合には300人以上の方々が駆けつけて下さいました。学校、主日礼拝などを考えるとても数え切れない方々との出会いが与えられました。

部落解放センターは4年前に四国教区キャラバン、2年前に関東教区キャラバンを実施しました。各教区で行うキャラバンはこれで3回目です。7月2日に久留米東町教会で「キャラバン大集合」を行い参加者約50名とインターネット生放送を観ていただいた約120名が「部落差別が無くなりましょうに、部落解放を教会伝道所の課題として取り組もう」と祈ることができました。

部落差別とは、生まれ、家柄、出身地、居住地、職業等によって人間を判断し、差別する問題です。この部落差別によって苦しむ人々は、その暮らす地域で差別に耐えている現状があります。今回、ある被差別部落が地域にある集会で、参加者が「教会にキャラバン隊が来るから、みんな来てほしい」と知らせたら「今さら部落差別問題を…」とそんなことをするから部落差別が残る」と言われたと聞きまし

た。また集会参加者の中から、いわゆる「寝た子を起こすな論」の意見が出された場面もありました。被差別部落の地域でもそうでない地域でも、長年の差別意識から「少し我慢すれば」や「声を発するから差別がおこる」などの黙認や容認が日常生活の中に根強いことを改めて考えさせられました。

「差別されている側」の声を発せないような状態が続く限りいつまでも部落差別がなくなりません。長年にわたる部落差別解消への取り組みや行政の区画整理・地名変更等により、見た目には部落差別の現象は減少したかもしれませんが、今だ部落差別はしっかりと残っています。これからもこの答えを部落解放センターから強く発信し続けて行きま

す。7月2日に久留米東町教会で「キャラバン大集合」を行い参加者約50名とインターネット生放送を観ていただいた約120名が「部落差別が無くなりましょうに、部落解放を教会伝道所の課題として取り組もう」と祈ることができました。

部落差別とは、生まれ、家柄、出身地、居住地、職業等によって人間を判断し、差別する問題です。この部落差別によって苦しむ人々は、その暮らす地域で差別に耐えている現状があります。今回、ある被差別部落が地域にある集会で、参加者が「教会にキャラバン隊が来るから、みんな来てほしい」と知らせたら「今さら部落差別問題を…」とそんなことをするから部落差別が残る」と言われたと聞きまし

た。また集会参加者の中から、いわゆる「寝た子を起こすな論」の意見が出された場面もありました。被差別部落の地域でもそうでない地域でも、長年の差別意識から「少し我慢すれば」や「声を発するから差別がおこる」などの黙認や容認が日常生活の中に根強いことを改めて考えさせられました。

「差別されている側」の声を発せないような状態が続く限りいつまでも部落差別がなくなりません。長年にわたる部落差別解消への取り組みや行政の区画整理・地名変更等により、見た目には部落差別の現象は減少したかもしれませんが、今だ部落差別はしっかりと残っています。これからもこの答えを部落解放センターから強く発信し続けて行きま

す。7月2日に久留米東町教会で「キャラバン大集合」を行い参加者約50名とインターネット生放送を観ていただいた約120名が「部落差別が無くなりましょうに、部落解放を教会伝道所の課題として取り組もう」と祈ることができました。

部落差別とは、生まれ、家柄、出身地、居住地、職業等によって人間を判断し、差別する問題です。この部落差別によって苦しむ人々は、その暮らす地域で差別に耐えている現状があります。今回、ある被差別部落が地域にある集会で、参加者が「教会にキャラバン隊が来るから、みんな来てほしい」と知らせたら「今さら部落差別問題を…」とそんなことをするから部落差別が残る」と言われたと聞きまし

バン、関東教区キャラバンは、長年部落差別に取り組んできたベテランの先輩方が自らの体験を元にしたテーマで話す集会でした。今回はメンバー3人が20代の青年でしたし、私自身、隊員としては初参加ながら隊長としての参加でしたので、知識や経験が不足している部分をお互いにカバーしながら、メンバー全員が、自分たちが準備してきた言葉や歌で一生懸命出来るだけのことをやって「部落差別解消を訴え、あらゆる差別を訴える」アピールをしました。各地で多くの方々に助けられました。多くの励ましが与えられました。各地の集会へ何度も足を運んでくださった先輩隊員もありました。時には厳しい叱咤激励もいただきました。今後のキャラバンへの提案もいただきました。深く感謝いたします。

今回のキャラバンに対していただいた提案は深く受け止めて今後のキャラバンに、また隊員一人一人の今後の取り組みに活かしていくことが出来ればと思います。

多田玲一実行委員長をはじめ、実行委員会の方々、九州教区、各地区の方々、そして各地で多くの方々にお世話になりましたことを深く感謝いたします。

「キャラバングッズ（扇子・手ぬぐい）」の素晴らしいデザインを、九州教区事務所の青戸みきわさんが作ってくださいました。深く感謝いたします。

約21年前に行った「全国キャラバン」や四国教区キャラバン

多田玲一実行委員長をはじめ、実行委員会の方々、九州教区、各地区の方々、そして各地で多くの方々にお世話になりましたことを深く感謝いたします。

「キャラバングッズ（扇子・手ぬぐい）」の素晴らしいデザインを、九州教区事務所の青戸みきわさんが作ってくださいました。深く感謝いたします。

約21年前に行った「全国キャラバン」や四国教区キャラバン

多田玲一実行委員長をはじめ、実行委員会の方々、九州教区、各地区の方々、そして各地で多くの方々にお世話になりましたことを深く感謝いたします。

約21年前に行った「全国キャラバン」や四国教区キャラバン



島田 創さん

被災者支援ボランティアに参加して



北海道生まれ、月寒教会員。写真下、左。

島田さんは現在大学3年生。高校1年生のクリスマスに洗礼を受け、キリストの枝に連なる一人とされた。そして自身の信仰と同時に伝道についても考えていた。しかし「伝道って難しいよな」と思いつつ年月だけが過ぎていた。

一人が五感で感じ、祈るときとなった。案内された単立教会の跡地では、十字架が立っていた基礎だけ残り、そこに新たな柱と十字架を立てた場所があった。その基礎部分には、コリントの信徒への手紙一13章13節の御言葉、「信仰と希望と愛、この三つはいつまでも残る」と刻まれていた。これを見た瞬間島肌が立ったと言う。「教会を愛し、神さまを同様に信仰している者として、今自分が通っている教会のことを考えると、とても苦しくなり、実際に被災した方が絶望や悲しみや不安の中でこの言葉を選んだことが頭の中で想像され、心の奥底まで響いた」と感想を語る。

一週間の活動を通して感じたことは「人と人とのつながり」であった。このような活動がいろんな場所で起こり、みんなが家族のような大切で身近に感じる関係を築き、それが大きくなっていけば、主の望まれる平和な世界になるのではないかと。言う。また、ノンクリスチャンの学生からキリスト教や教会について尋ねられ、人とのつながりが伝道の第一歩になると確信した。

被災の跡が残る地域に案内されたフィールドワークでは、一

教団としてぜひ継続して取り組んでほしいと願う課題は多い。その一つが生命倫理の分野、特に医療現場における遺伝子研究に関する課題ではないかと思っている。

一人としてその審査に関わっているが、近年、委員会に提出される案件は、その8割方がまさに遺伝子研究分野そのものである。

かつて、キリスト教界においても「脳死と臓器移植」の問題が大きく取り上げられ、議論されたことがあった。しかし、最近のiPS細胞を使った再生医療の研究に関する倫理的問題や、遺伝子検査による特定の病気の診断とその予防的対応（米国の女優が乳がんのリスクを減らすために予防的乳房切除を行った例など）といったことについては、事柄についての

生命倫理の課題の共有を願う

が設置している倫理委員会での審査を受けることが定められている。私は市立秋田総合病院で10年以上にわたって治験審査委員および倫理委員を務め、現在は秋田大学医学部倫理委員（外部委員）の

（教団総書記 雲然俊美）